

## 愛知県福祉サービス第三評価事業 評価結果

### ①第三者評価機関名

株式会社 スニックス

### ②施設・事業所情報

名称：とものわ豊田事業所	種別：障害者就労継続支援A型事業所	
代表者氏名：代表取締役 近藤 真人	定員（利用人数）：20名（17名）	
所在地：〒470-0372 愛知県豊田市井上町5丁目55番		
TEL：0565-47-0333		
ホームページ：https://www.tomono-wa.jp		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成29年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ストレートアライブ		
職員数	常勤職員：5名	非常勤職員：1名
専門職員	介護福祉士：1名	
	精神保健福祉士：1名	
施設・設備の概要	(居室数)：3室	相談室：1室
	訓練作業室兼多目的室：1室	

### ③理念・基本方針

#### 【法人理念】

「新しい農業の形を障がい者とともに創造する」

#### 【基本方針】

- ・『できる人が・できる場所で・できる役割を』
- ・『できる事に着目し、過去の自分と比べて成長したことを見つける』

### ④施設・事業所の特徴的な取組

・農作業及び野菜の出荷作業を中心として行っている。できる人が、できる場所で、できる活躍を、という思いの基、できることは利用者の方にできる限りやって頂き、自信やスキルアップにつなげている。

・『農福連携』をキーワードに、障がいのある人も農家の人もともに農業の主役となり、農作業を通じて、できないことに着目するのではなく、できる事に着目し、過去の自分と比べて成長していけるようにしている。

### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年9月13日（契約日）～ 令和4年3月25日（評価決定日）  【令和4年1月26日（訪問調査日）】
受審回数 （前回の受審時期）	0回（平成 年度）

## ⑥総評

### ◇総評

第三者評価受審を一つの契機として捉え、不足している点や改善すべき点を洗い出し、ステップアップを図るため、今回の受審に臨んだ株式会社ストレートライブは、障害者就労継続支援事業所とものわ金山事業所、豊田事業所を運営している。

豊田事業所では、平成29年4月の開設以来、農福連携の確立を図るためにさまざまな取り組みを積み重ねてきている。農業に携わる場を提供して利用者の自立のための工賃確保を図るばかりではなく、自然栽培による安全で安心できる野菜の提供、6か所の耕作放棄地を借り上げての野菜の栽培、農作業の受託など地域の環境を守り地域活性化へ寄与するなど今後が楽しみなA型事業所である。

規模的にはさほど大きくない事業所であるため、業務に必要な情報や業務手順などのスタッフへの周知は、日々のコミュニケーションの中で十分図られているため、マニュアル、仕組みの整備、文書化などについては、未整備などところが多い。どのスタッフでもスタンダードなサービスを提供できるよう今後の取り組みに期待したい。

### ◇特に評価の高い点

#### 【利用者個々の成長を重んじた支援】

職員と利用者はパートナーという関係であり、一緒に働く仲間であるという風土が感じられる。「できる人が・できる場所で・できる活躍を」という方針のもと、人と比べず、個々の成長を目標にした支援に努めている。

#### 【利用者の自主性を重んじた支援】

障害の種別を問わず、希望者への門戸を広げ事業所を利用することができ、利用者もアシスタントや正規職員として雇用されるキャリアアップの仕組みがあり、働くことへのモチベーションアップに繋げている。さらに、働く意欲や意識の向上のために、給料に見合う作業内容や納期を利用者に伝え、利用者自身が自分の役割を認識し、考える力に繋げる支援に努めている。

#### 【充実感が持てる支援】

農業は様々な工程があり、障害を持った利用者に関われることが多いという管理者の考えがベースにあり、利用者それぞれがひとつ以上のできることを見つけることで、やりがいや新たな目標を持てるよう充実感に繋げる支援をしている。

#### 【農福連携の実現に向けた管理者のリーダーシップ】

農福連携の実現に向け、管理者は積極的に先頭に立ち、生産性向上のための作業体制の改善や支援体制の充実、農作業の受託（地域連携活動）の推進などに対しリーダーシップを発揮すると共に、利用者や職員とのコミュニケーションを図り次世代の農業の形の基盤づくりに努めている。

### ◇改善を求められる点

#### 【マニュアルや記録等の整備を】

マニュアルや手順書をはじめ、支援など福祉サービスの根拠となる記録が十分整備されていない。業務の説明や利用者の情報・支援方法などは、職員の経験値を口頭で伝達しており、目で確認できる資料が少ない。スタンダードなサービスの提供のためのマニュアルの整備、サービス内容の確認や課題の明確化に向けた記録の整備を検討されたい。

#### 【事業継続に向けたビジョンの明確化を】

農業を通じて障害者に対し働く場所と働く機会を提供し、工賃を支給していくという方針での事業所運営はこれからの農業、これからの福祉にむけて大いに期待が持てる場所であるが、事業所を安定させ継続していくためにも組織的な体制の整備と明確なビジョンが不可欠である。会社組織としてさらなる充実と成長に向けた中・長期計画を策定され、ビジョンに向けた取り組みを示されると共に、単年度の計画の策定により具体化されたい。

#### 【職員育成と専門性の向上を】

事業所の課題としても捉えられている専門性の向上に向けたスタッフの育成や資質向上のための取り組みが不十分である。今後は研修会や勉強会などを計画的に進められると共に、職員育成のプログラム整備にも期待したい。

#### 【利用者に対する積極的な支援を】

利用者の自立度が高いということもあるが、利用者からの要望や申し出があった時に対応するなど受動的姿勢といった点も見られる。利用者はパートナーという考え方が自立に向けて作用している反面、事業所としての取り組みが消極的な面も感じられる。事業所として利用者の意見や意思の確認、新しい情報の提供など積極的に進められることに期待したい。

## ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回初めての第三者評価をさせていただき、事業所として足りない部分を再確認させていただきました。多くの改善点はありますが、特段取り組みが必要と感じる部分としては『第三者の立場からみたらどうか』『新入社員の立場からみたらどうか』という点が非常に改善が必要と感じています。

具体的には事務業務や利用者業務、外部対応などのマニュアルがほとんどないため誰がみても分かるようなマニュアル作成の必要性に気づかされました。今後はまずこの観点から改善に努めていきたいと思っております。